

市町村の廃棄物処理施設広域化の検討状況について

平成28年3月24日

(一財)日本環境衛生センターに委託し、県内市町村の生活関連インフラ（ごみ焼却施設及びし尿処理施設）の平成52年（2040年）における望ましい姿についてシミュレーションを行ったが、現在、次のような検討が行われている。

【県北地区】

県と関係市町等（※）が共同で米代川流域下水道大館処理センター内に汚泥処理施設を建設し、県北地区の生活排水処理汚泥を集約処理することにより、事業運営の効率化、処理コストの低減及び生活排水処理サービスの継続的提供などを目指している。

※ 能代市、大館市、鹿角市、小坂町、藤里町、八峰町、能代山本広域市町村圏組合 計7団体

(主なスケジュール)

- H 2 6 協定締結
- H 2 7 基本設計
- H 2 8 発注準備手続き
- H 2 9～3 1 建設工事
- H 3 2 供用開始（予定）

【県南地区】

大曲仙北地域における廃棄物処理施設は、大仙市、美郷町では大仙美郷環境事業組合が管理運営し、仙北市では直営で行っている。

同地域では、人口減少社会に対応した廃棄物処理施設の機動的・効率的な有効活用、全体経費の抑制及び将来的な一括処理や新統合施設の建設に向けた調整を進めるため、施設運営の権能を大曲仙北広域市町村圏組合に移管し、運営組織を一元化する方向で検討を行っている。